

卒業論文作成の手引き

卒業論文の価値は、その内容にあるのは言うまでもありません。しかし、書かれた内容を読む人に正確に伝達するためには、分かりやすい形式で記述することが必要です。この卒業論文作成の手引きは、卒業論文の形式的な側面に焦点をあてたものです。論文作成の「厳正なルール」ですからよく読んで参考にしてください。レポート作成にも日々利用してください。

1 卒業論文の構成と形式

卒業論文は、表紙、目次および論文本体から構成する。

表紙は、図1の形式で作成する。

目次は、図2の形式で作成する。用紙中央部に、タイトルを記し、その下に目次をつくる。目次は〈目次〉と明記し、1頁に収まるようにする。見出し番号は図2のように「1 (1) ①」といった形式にする。カッコ無し数字は節に当り、両カッコ数字は項にあたると考える。

図1 表 紙

200〇年度
卒業論文
指導教授 ○○○○
論文題名
『〇〇〇〇〇〇〇』
熊本学園大学
経済学部〇〇〇学科
なまえ

図2 目 次

『日本の労働市場』
〈目次〉
はじめに
1 *****
(1) *****
① *****
② *****
(2) *****
2 *****
(1) *****
(2) *****
③ *****
3 *****
(1) *****
(2) *****
③ *****
おわりに

2 卒業論文内容記述についての留意点

目次のあとに、ページをあらため、論文の記述をはじめる。

「はじめに」では、とり上げたテーマの意味、テーマの背景、そしてテーマ選定の理由、卒業論文の構成等の説明をおこなう。半頁以上1頁以内にまとめる。

つづいて、「本文」を書き、最後に参考文献や資料を「注」としてまとめる。以下「本文」および「注」記述についての留意点をしめす。

- (1) 目次に対応する見出しで区切って書く。たとえば、目次に「1 ○×△□」となっていたら、本文の見出しある「1 ○×△□」とする。

- (2) 頁を適切な位置（下中央）に振る。
- (3) 図や表は本文の適切なところに割当てる。
- (4) 日本語に関して
 - ① 主語と述語を正確に対応させる。そのためには、1つの文章は最長で60字程度におさえる。
 - ② 誤字、当て字、ワープロ変換ミスを点検する。そのためには、できあがった卒業論文を誰か他の人に見てもらうのがよい。
 - ③ 段落の先頭の文字は1文字下げる。
 - ④ 句読点、右括弧、添字等は行の先頭に来ないようにする。
 - ⑤ 2行にわたる英語の綴りは適切な箇所でハイフンを入れて切る。
 - ⑥ 語調は「である」調に統一することが望ましい。
 - ⑦ 文中の短い引用は「　」でくくる。文中の長い引用は、行を改めて本文より2字下げて記す。
- (5) 参照箇所や引用には必ず注番号を付け、出所を明示する。注は本文の文末に、所定の形式で注番号順に記載する。
 - ① 注番号は通し番号とし、参照箇所や引用の直後につける。
 - ② 単行本や雑誌の書名の表記は次的方式による。和書は、『　』でくくり、洋書はイタリック（斜体文字）で書く。
 - ③ 論文名は、和書は「　」で、洋書は“　”でくくる。
 - ④ 初めて出てきた単行本の場合は、著者姓名『書名』発行所、発行年、頁、そして最後にピリオド、の順で表示する。なお、洋書の場合は、カンマ（，）の後にスペースを1ついれること。
 - ⑤ 初めて出てきた論文の場合は、執筆者姓名「論文名」『雑誌名』巻号数、刊行年、頁、そして最後にピリオドの順で表記する。なお、同名の雑誌がある場合は発行所を明示する。
 - ⑥ 翻訳書の場合は翻訳書の後に括弧で原著を示すか、次の行に原著を示す。ただし、翻訳書だけを利用して原著にあたっていない場合は、翻訳書だけを表示する。
 - ⑦ 頁の表記は、p.xxまたはpp.xx-xxとする。ただし、和書の場合は、〇〇頁とか〇〇-〇〇頁としてもよい。
 - ⑧ 続けて同一の文献や論文を引用する場合は簡略表示する。和書は、同上（同書、同上書、同訳書、同上訳書、同論文、同上論文、も可）、洋書は、Ibid.（ラテン語のIbidem（同じ場所に）の略）と表記する。

以下は、「注」の例である。

- (1) 田村正紀『日本型流通システム』千倉書房、昭和61年、224頁。
- (2) 同上、285頁。
- (3) 石田晴久「研究者を結ぶ国際ネットワークの構築」『オフィス・オートメーション』vol.8、No.5、1988年、24-30頁。
- (4) 田村、前掲書、58頁。
- (5) 石田、前論文、28頁。
- (6) 代表的な事例としては以下のものが挙げられる。〇〇〇〇〇〇。
- (7) 柴田章久「内生的経済成長理論」『季刊理論経済学』44、1993年、pp.385-401。
- (8) Porter, M.E. *Competitive Strategy*, The Free Press, 1980, p.62.
- (9) Ibid., p.152.
- (10) L.V.Stern and P.J.Kaufman, "Electronic Data Interchange in Selected Consumer Goods Industries", in R.D.Buzzel, ed., *Marketing in an Electronic Age*, Harvard Business School, 1985, p.52.
- (11) 村田昭治監修、P.コトラー『マーケティング原理』ダイヤモンド社、昭和58年。
P.Kotler, *Principles of Marketing*, Prentice-Hall, 1980.